

## 1. 調査報告概要表

作成日 2009年2月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1591200058
法人名	社会福祉法人 回生会
事業所名	認知症高齢者グループホーム あさひ
所在地 (電話番号)	新潟県 村上市 猿沢 2222 (電話) 0254-60-2223
評価機関名	エム・エム・シー総合コンサルティング 株式会社
所在地	新潟県 上越市 富岡 3446
訪問調査日	平成21年1月9日

## 【情報提供票より】(平成20年12月17日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 12 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7.6

## (2)建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋建造り		
	1階建て	1階 ~	1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	17,800 円
敷金	有( ) 円	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有(無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

## (4)利用者の概要(12月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.7 歳	最低	77 歳	最高	98 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 佐藤医院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然環境に恵まれ、清潔感と開放感のある落ち着いた和風建築のグループホームです。  
敷地内に隣接された同法人の介護施設、協力病院との連携が密であり、安心のバックアップ体制がとられています。  
事業所内は管理者を中心に職員間の信頼関係と協力関係が築かれており、一丸となっています。その結果、昨年度の課題を着実にクリアしており、本年度は更に一歩進めた課題を評価結果としました。今後1年間での更なる前進を期待します。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の際課題となった地域との関わりを改善するため、委員会の体制を変え、本当に喜ばれる地域交流から考え直し、運営推進会議でも検討を行った上、計画と実行が進められました。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価に関しても定例会議にて全職員で話し合いの上、自己評価が作り上げられています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	事業所からの報告に加え、事業所からの質問を参加者に投げかけることで、提案や協力を得ています。また、会議には管理者の他にユニットごとに1人づつ職員が参加する他、参加していない職員にも内容が伝達されています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時やケアプラン説明の際に直接家族からの意見を伺う他、家族参加のイベント、運営推進会議や相談・苦情対応窓口の設置などが行われています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の商店や近隣住民との挨拶や差し入れなどの日常的な交流や隣接する保育園の運動会への参加や法人全体での行事に地域の人に参加を呼びかけるなどの取り組みが行われています。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人のために何ができるか?」という考えのもと、職員が理想を書き出し持ち寄り、集約した結果として「その人がその人らしさを発揮し心身共に安心して生活ができる場となる様支援します」という理念を作られました。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム全体の年間目標、ホーム全体とユニットごとの月間目標に落とし込み、理念の具現化に向けて取り組まれています。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の来訪時や、地域の長寿大学の見学時に理念を伝えるなどの取り組みが行われています。また、昨年度課題であった広報誌を通しての地域への理念の浸透も、法人として年2回の発行に向けて取り組みが進められています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の商店や近隣住民との挨拶や差し入れなどの日常的な交流や隣接する保育園の運動会への参加や法人全体での行事に地域の人に参加を呼びかけるなどの取り組みが行われています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の際課題となった地域との関わりを改善するため、委員会の体制を変え、本当に喜ばれる地域交流から考え直し、運営推進会議でも検討を行った上、計画と実行が進められました。また、今回の評価に関しても定例会議にて全職員で話し合いの上、自己評価が作り上げられています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告に加え、事業所からの質問を参加者に投げかけることで、提案や協力を得ています。また、会議には管理者の他にユニットごとに1人ずつ職員が参加する他、参加していない職員にも内容が伝達されています。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議をきっかけとして、運営推進会議以外にも頻繁に相談をする関係が作られています。また、地域包括支援センターの職員が事業所を訪れ、状況を理解した上で、協力関係が作られています。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルによる周知徹底に加え、外部研修への参加、事業所内での勉強会を通し、職員全員が虐待に関する意識と知識を共有されています。また、身体的な拘束のみならず、言葉による虐待への配慮もされています。加えて、事業所の受付には全国老人保健施設協会の虐待防止に関する冊子が備え付けられています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ケアプランを送付する際、手紙や電話にて利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えるとともに、生活記録を全職員が共有することで、来訪時にどの職員が対応しても、利用者の状態を報告できるようにされています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン説明の際に直接家族からの意見を伺う他、家族参加のイベント、運営推進会議や相談・苦情対応窓口の設置などが行われています。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見交換できる雰囲気作りに留意しながら、ユニット会議や全体の定例会議が定期的開催されています。また、本年度よりリーダー・サブリーダーを設け、職員の意見を管理者に伝えやすくする体制が作られました。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新入職員の入職の際には、新入職員が少しずつ来て利用者や徐々に顔なじみの関係をつくる工夫をされていますが、異動や退職者に関する家族への説明に課題が残ります。		家族へのお便りなどに異動の挨拶や紹介を載せ、家族へも情報を開示することで、信頼や安心感を高めることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	基本的なマニュアルは揃っております。また、優先順位を付け、より現状に即したマニュアルにするための見直しが行われています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上下関係なく、職員間で協力し合いケアに取り組んでいることで有効なOJTがなされています。また、法人内での研修会、外部で行われる研修会への参加に加え、研修委員会が介護技術に関する職員の不安を吸い上げ、研修を実施しています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ加入されています。また、近隣の同業者との管理者同士の意見交換や職員の交流が行われています。		近隣の同業者との交流を一步進めて、相互訪問や合同での勉強会の開催などが行われることを期待します。
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	本年度よりリーダー制にしたことにより、直接管理者に言いづらいことでリーダーが吸い上げる仕組みになったことや、休憩を確実に取れるようにするなど、法人を含めて事業所全体で働きやすい職場づくりが進められています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初めての来所の際に、既に入居している利用者と一緒にお茶を飲むことや、まずはレクリエーションに遊びに来て、顔なじみの関係を作るなど、利用者の輪に自然に入れる工夫が行われています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	コミュニケーションを密にとり、職員が自分のおじいちゃん・おばあちゃんのように接し、家族のような関係を構築する中から、利用者から職員のプライベートなことに関するアドバイスを受けて、知恵を学んだりするといった場面が作られています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族からの差し入れ、敷地内にある畑の手入れのボランティア、食事が減少している利用者には家族から好きだったものを用意してもらうなど、家族と職員が協力してケアに取り組まれています。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面談での聞き取りに加え、日々のケアの中から把握した意向を生活記録に記載し、ケアプランに反映することで、希望や意向に応じた対応されています。		面談時や日々のケアの中で得た情報を一元的に管理し、定期的に情報を追加する仕組みをつくり、さらに情報が活用されることを期待します。
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に独自のフォームを活用して生活歴の情報収集が行われています。また、職員が日々のケアの中から得た情報は、生活記録に記載し、申し送りや全体会議の場で共有されています。		思いや意向の把握同様、面談時や日々のケアの中で得た情報を一元的に管理し、定期的に情報を追加する仕組みをつくり、さらに情報が活用されることを期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見を踏まえた上で、全職員が記入するケアチェック表の様々な視点からの意見を集約することで、一人ひとりに最適なケアプランを作成する工夫がされています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全職員の意見を集約して定期的な見直しが行われるとともに、ケアチェック表によりケアプランと実際のケアのギャップをすぐに見つけられるように工夫がされています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所として、一人ひとりに応じた柔軟なケアを行うとともに、複合福祉施設のメリットを最大限活用し、介護保険施設・ケアハウス・ヘルパー・診療所との連携を密にすることで、利用者の状態に合わせた対応が可能となっております。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力の診療所を希望されるケースが多いが、本人やご家族の希望の病院での受診が行われています。情報の共有は、必要に応じて書面にてご家族を介して行われています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に関する同意書」を用いて、重度化の際、どのようにしたいかというご家族の考えを確認されています。また、医師・栄養士等の連携体制ができています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家族に対して契約時に「個人情報に関する同意書」による説明と同意が行われているとともに、職員に対しては基本的なことは入職時の研修にて徹底されています。また、全体会議等の機会を利用し、定期的にチェックが行われています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日のスケジュールはあるが、無理強いせず、本人の気持ちを大切に、本人のペースで役割が行われたり、晩酌を楽しみにされたりしています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理、盛り付け、片付けを一人ひとりの好みと能力に合わせて行い、職員と協力しながら食事の一連の流れが行われています。また、利用者が食べたいものを聞き、栄養士に渡しメニューに反映させることや、敷地内の畑で収穫した大根、白菜、キャベツ、ブロッコリーなどの旬の食材が取り入れられています。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	生活記録への記録から排泄パターンを把握しケアプランに反映させることで、オムツを使用する場合も夜だけの使用に限定するなどの工夫がされています。また、排泄の失敗に関しては、夜間居室で起こることが多いため、何事もなかったように片付けを行う配慮がされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1回の入浴に2時間かける方に対しても、せかすことなく本人のペースを大切に介助がされています。また、拒否される方も少なく、2回入りたいという方もいる状況です。また、同性の職員が介助に当たる等の配慮も忘れていません。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を踏まえ、その人が一番輝く役割をお願いする配慮をされています。また、手芸や歌の他、併設の介護保険施設で朝の体操を行ったり、ケアハウスでのカラオケに参加したりと複合施設のメリットを活かした楽しみごとが行われています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩、敷地内の畑、ホームのデッキなどの日常的な外出に加え、計画を立てて外食や海へのドライブなどが行われています。		複合施設であるため、簡単に外出をしづらいという条件を乗り越えて、地域交流を含めた外出の機会を増やしていくことを期待します。
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で定められている「身体拘束に関する取り決め」が全職員に周知徹底されています。また、精神的な身体拘束についても全体会議にて職員間でケース検討が行われています。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	構造上の問題と虫や動物の侵入への配慮から、正面玄関は開放できない状況ですが、一人ひとりの希望や行動特性を把握し、付き添い声掛けによる対応が取られています。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書・事故報告書を活用し、職員全員が原因の検証と再発防止策を検討する機会が設けられています。また、複合施設全てに利用者の顔写真入りの情報を配布し、行方不明防止に努められています。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	継続的に普通救命講習を受講されています。また、急変や事故の発生の際には、医師や看護師に連絡し、直に対応してもらえるバックアップ体制が確立されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の定期的な避難訓練の実施や、複合施設と連携した備品・備蓄の整備がなされています。また、複合施設の防災委員会への参加や、ホーム独自のマニュアル作りにも取り組まれています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量と水分量を生活記録にて管理とともに、栄養士による献立の栄養バランスへの配慮がされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、明るく清潔感と開放感があり、木目と落ち着いた色調の壁には程よく手作りの作品や写真などの装飾がされており、温かさを感じることができます。また、中庭や囲炉裏などの工夫もされています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や備品などを持ち込んでもらうよう働きかけ、利用者一人ひとりの好みに応じて居心地よく過ごせる部屋になるよう配慮されています。		